



2021年 5月11日
第131号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



ANA年間一時金の支給見送る方針を提示

報道では、全日空が2021年度夏冬を合わせたボーナスに相当する年間一時金の支給を見送る方針を労働組合に提示したとのこと。昨年は、一時金として夏に1か月分を支給し、冬の支給は見送っていました。今年1月から基本給の5%削減も実施しており、従業員の年収は業績悪化前と比べて約4割減となる見通しです。

全日空は救済策として社員寮の入寮条件を緩和することや住宅ローンの支払いなどに備えた最大100万円の無利子融資を用意するとしています。



ANAホールディングスは、21年3月期連結決算の最終（当期）損益が4046億円の赤字となり、過去最悪でした。22年3月期連結決算の最終損益は35億円の黒字と予想しています。

JR東日本は4月28日に発表した21年3月期連結決算では、純損益が5779億円の赤字となりました。1987年の国鉄民営化後、初の赤字となりました。来年3月までの今年度1年間の業績予想は、360億円の黒字としています。



私たちの生活を守るために、職場から声をあげよう！



「会社が赤字だから定期昇給が係数2でも仕方ない」「この業績では夏季手当も厳しいかも」と諦め感に囚われている仲間はいませんか？年収が4割減になって生活していけますか？社員の賃金や手当を減らす前に、他に減らせるものがあるのでは？という声も聞きます。

社員である前に、私たちは1人の人間として生活があります。仕事のために生きているのではなく、生きるために仕事をしているのです。夏季手当交渉には、職場の仲間の声、実践をきちんと会社に伝えていくことが必要です。

東労組全組合員で夏季手当に向けたたたかいを職場からつくり出していきましょう。